

【歯学部 口腔保健学科】

科目名		ディプロマポリシー	主要授業科目	【1. 知識・理解】 口腔保健・福祉を理解し、その専門知識と技能を有する。	【2. 汎用的技能】 (1)歯科予防処置、歯科保健指導および歯科診療補助に関する基本的技能を有する。 (2)患者やその家族あるいは保健福祉活動の一員として、健康・福祉関係者と良好なコミュニケーションができる。 (3)チーム医療や保健福祉活動の推進者としての自覚を持ち、その責任を果たすことができる。	【3. 態度・志向性】 (1)口腔保健・福祉の学習を通じて、社会人としての自覚を持ち、その責任を果たすことができる。 (2)医療や介護を必要とする人々に対して、慈しみと思いやりをもって支援することができる。 (3)歯科医療の進歩や社会の医療ニーズの変化に高い関心を持ち、生涯にわたって継続的に学習する能力を持つ。	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】 関連分野における事象や課題について自ら学び、適切な判断と必要な行動ができる。	科目の教育目標
教養科目群								人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「もの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。
	歴史と文化			○			○	・人文科学分野（歴史学、思想、倫理学、文学、芸術、考古学、地理学、文化人類学など）を中心に学ぶ。 ・人間が創造してきた文化や社会の特質、またはそれらの変遷等を学ぶ。 ・様々な地域、時代、分野の人間の営みを学ぶことで、これからの世界で生きていくために必要な、「物事を複眼的に捉える知」を身につける。
	人間と生命			○			○	・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的事象などの根源的な問いを思案することを通して、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野（哲学、倫理学など）、行動科学分野（心理学、教育学など）、生命科学分野（生物学、生命科学など）を含む複合的な分野を学ぶ。
	生活と社会			○			○	・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野（法学、政治学、経済学、経営学、社会学など）を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ視野を広げる。
	自然と技術			○			○	・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有機、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代において、技術の基礎、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につける。 ・自然科学と工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、理学的な理解を広く深める。
	ウェルネス総合演習			○				・健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにしながら講義と演習、実習により総合的に学び、表出する。 現代社会の諸問題を学び、それらの課題を主体的に捉える態度を身につける。
創成科学科目群	グローバル科目			○			○	・異なる価値観や文化を知り、それらを認め合い、さらに積極的なコミュニケーションを図るグローバル人材として必要なことを学ぶ。 ・さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。
	イノベーション科目			○			○	・地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における担い手として必要な資質を得ることを目指し、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。
	地域科学科目			○			○	・横断的な医療分野の基礎教育と汎用的技能を学ぶ。 ・専門領域における社会的意義を理解し、チーム医療、健康社会づくり等のスキルを修得を目指す。
	医療基礎科目			◎		◎	○	
基礎科目群								大学での専門分野を学ぶ前提となる基礎学力を修得する。
	S I H進捗				○	○	◎	・専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。
	情報科学			○			○	・情報の取り扱いやその倫理などの情報リテラシーの基本に加え、コンピュータの活用方法を学ぶ。 ・数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。
外国語科目群								英語や初修外国語の学習を通して、各言語の運用能力を養成し、日本語とは異なる言語の世界への理解を深めることを目指す。
	英語				◎	○	○	・基礎英語力及び英語コミュニケーション力を養い、十分な言語運用力と自律学習スキルを取得する。 ・基礎英語は、高校までに身につけた英語力の充実に回り、大学で自律的に学習を続けるための基礎力をつくる。 ・主題別英語は、科学・時事・文学・文化などのコンテンツを英語で学び、基礎英語で身につけた英語力と自律学習スキルのさらなる向上を図る。 ・発信型英語は、自信を持って、英語でコミュニケーションをするための話す力と書く力を身につける。
	初修外国語				○	○	○	・英語と異なる外国語の運用能力の基礎を固め、その言語の世界における物事の見方や考え方に対する理解を深める。

【歯学部 口腔保健学科】

ディプロマポリシー		主要授業科目	【1. 知識・理解】			【2. 乳用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 統合的な学習態度と創造的思慮力】		科目の教育目標
科目名			口腔保健・福祉を理解し、その専門知識と技能を有する。	(1)歯科予防処置、歯科保健指導および歯科診療補助に関する基本的技能を有する。	(2)患者やその家族あるいは保健・医療・福祉関係者との良好なコミュニケーションができる。	(3)チーム医療や保健福祉活動の一員として、その役割を果たすことができる。	(1)口腔保健・福祉の学習を通じて社会人としての自覚を持ち、その責任を果たすことができる。	(2)医療や介護を必要とする人々に対して、慈しみと思いやりをもって支援することができる。	(3)歯科医療の進歩や社会の医療ニーズの変化する中で、心を開き、自ら主体的に学習する能力を持つ。	関連分野における事象や課題について自ら学び、適切な判断と必要な行動ができる。				
専門教育科目	解剖学	○	◎					○			○		解剖学総論、骨格系、筋系、内臓系、脈管系、神経系、感覚器系に分け、人体の大意とそれらの構造について学習する。解剖学は医療に携わる者にとって、まず習得すべき学問であり、本講義では全身の解剖学的知識を教授し、それを口腔と密接に関連させることで全体的医療の実践を図る。	
	生理学	○	◎					○			○		生理学では、細胞の基本構造を理解し、内分泌ホルモンの産生調節、生体作用、機能亢進と機能不全、分泌異常、輸送と代謝などを教授する。またニューロンの働きや筋収縮、生体現象を良く理解も教授する。	
	生化学	○	◎					○			○		生化学においては生体の営みを分子のレベルで理解するために、高次生体構造とその機能、人体諸臓器の発生・分化・加齢の仕組み及びそれに伴う変化や異常による病態、口腔内構造物の発生・分化・機能について教授する。	
	口腔解剖学	○	◎					○			○		口腔保健医療者として必要な顎顔面口腔領域の局所解剖学的知識を頭頸部の部位毎に学習するとともに、頭頸部の骨格系や筋系及び神経系や内臓系の臨床発生を総論的に学習する。	
	歯の解剖学	○	◎					○			○		歯の解剖学では、歯の形態と構造を理解し、固有の歯種の判別ができ、歯の形態を理解し臨床に役立つ知識を習得させることを目標とする。	
	口腔組織学	○	◎					○			○		口腔組織学では、口腔保健医療に必要な口腔機能に関して、その果たす役割を理解し、摂食行動、咀嚼運動、嚥下機構などの基礎知識も習得させる。	
	口腔生理学	○	◎					○			○		口腔生理学では、生体の機能維持に重要な役割を果たす口腔諸臓器の生体機能についての知識を習得させる。	
	病理学・口腔病理学	○	◎					○			○		疾患の原因と病態に関する基本的知識を習得し、さらに顎口腔領域の様々な疾患の成立をトータルな生命現象として理解する。	
	薬理学・歯科薬理学	○	◎					○			○		薬物および生体活性物質の作用の基本的メカニズムを理解し、薬物を安全かつ効果的に利用する能力を身につける。	
	微生物学・免疫学	○	◎					○			○		微生物の種類と特性ならびに生体の防御機構を理解し、感染症の基礎的な知識、理論を身につける。また口腔細菌の特徴と病原性を理解する。	
	オーラルヘルスプロモーション	○	◎					○	○	◎	◎		オーラルヘルスプロモーションを理解し、実践できる力を修得する。	
	歯科衛生士概論	○	◎					○	○	◎	◎	○	国民のQOL向上に貢献する歯科衛生士として、その業務と役割についての知識を習得する。	
	歯科衛生統計	○	◎					○			○		疫学とEBMの概念を理解し、臨床や地域保健の場で得られた情報を客観的に分析して評価する能力を修得する。	
	衛生行政	○	◎					○			○		わが国における衛生行政の目的、組織とその意義について理解する。また、関連する法規の内容を修得する。	
	衛生学・公衆衛生学	○	◎					○			○		人々の健康を保持増進するための社会医学を理解し、包括的な問題解決方法の考え方を習得する。	
	口腔衛生学	○	◎					○			○		口腔の健康を保持増進させる理論と方法を理解し、口腔疾患の予防法を習得する。これらの知識と技術を生かして、個人から集団を対象としたレベルでの口腔保健管理を実践できるような理解を深める。	
	口腔保健衛生学基礎実習	○	◎	◎				○			◎		講義等で習得した口腔保健学に関する知識を基として、関連する基礎実習を行うことにより、その内容の理解を深めるとともに、問題解決に必要な態度と能力を養う。	
	医療安全管理学	○	◎					○		○			歯科医療の質と安全を確保するために、具体的に医療現場で行われる必要な業務を把握し、医療事故を未然に防ぐ知識と心構えを習得する。	
	早期臨床実習	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	歯科医療系学生における人間力を高めるため、早期から学生自らのコミュニケーション能力を向上させ、ホスピタリティ・マインドを体得し、また、口腔保健従事者としての自覚や倫理観を習得するために学外の社会福祉施設等において体験実習を行う。またこれらから学ぶ口腔保健学に対する学習意欲を向上させることを目的として、実際の歯科医療現場を見学し、歯科医療従事者の業務内容を体験する。
	発達系歯科学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔保健の意義および口腔疾患の特徴、予防ならびに治療法を理解する。また、顎口腔機能の発達過程および不正咬合との関連を理解し、顎口腔機能の育成および個性正常咬合獲得を口腔保健の立場から支援するための知識を修得する。
	保存系歯科学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	保存治療の種類と内容を理解し、チーム医療を実践するために必要な知識を修得する。
	補綴系歯科学	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	顎口腔機能について理解するとともに、障害がある場合に補綴装置によって機能、形態、審美を回復し維持するための診断、治療、術後管理法について学習する。
	外科系歯科学	○	◎			◎		○		○	○	○	○	顎・口腔領域に発現する様々な病変や疾患に関する知識を身につけ、それらの疾患を対象とした診療の中における歯科衛生士の役割と患者とのかわり合いを理解することを目的とする。
	歯科放射線学	○	◎			○		○		○	○	○	○	歯科診療に必要な放射線を有効かつ安全に利用するための知識と技能、さらにはチーム医療に必要な基本的な手技を習得する。
	歯科麻酔学	○	◎			◎		○		○	○	○	○	歯科診療において痛みのない安全で有効な処置を行うために必要な歯科麻酔学の知識を理解し、チーム医療に必要な基本的な手技を修得する。また歯科治療中の安全管理と危機管理を修得する。
	歯科保健指導論	○	◎					○		○	○		○	人々の口腔保健や疾病予防のニーズにあった支援をするために、論理的に思考し、問題発見および解決できる知識・技術を修得する。
	歯科診療補助論	○	○	◎				○			◎		○	歯科診療補助を行う上で必要な知識を修得することを目的とする。
	チーム歯科医療学	○	○	◎		◎		○		○	○	○	○	医療・介護制度やチーム(歯科)医療がどのように実践されているかを把握し、その中で歯科衛生士の役割を理解することを目的とする。

【歯学部 口腔保健学科】

科目名	ディプロマポリシー	主要授業科目	【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 総合的な学習態度と創造的思慮力】	
			口腔保健・福祉を理解し、その専門知識と技能を有する。	(1)歯科予防処置、歯科保健指導および歯科診療補助に関する基本的技能を有する。	(2)患者やその家族あるいは保健・医療・福祉関係者と良好なコミュニケーションができる。	(3)チーム医療や保健福祉活動の一員として、その役割を果たすことができる。	(1)口腔保健・福祉の学習を通じて社会人としての自覚を持ち、その責任を果たすことができる。	(2)医療や介護を必要とする人々に対して、慈しみ思いやりをもって支援することができる。	(3)歯科医療の進歩や社会の医療ニーズの変化に高い関心を持ち、生涯にわたって主体的に学習する能力を持つ。	関連分野における事象や課題について自ら学び、適切な判断と必要な行動ができる。			
高齢者福祉		○	○		◎	○	○						①高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②高齢者福祉の歴史と高齢者の変遷、制度の発展過程について理解する。 ③高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。
障害者福祉		○	○		◎	○	○						①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②障害者福祉の歴史と障害者の変遷、制度の発展過程について理解する。 ③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。
児童・家庭福祉		○	○		◎	○	○						①児童の権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。 ②児童福祉の歴史と児童福祉の変遷や制度の発展過程について理解する。 ③児童や過剰福祉に係る法制度について理解する。 ④児童や過剰福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。 ⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。
貧困に対する支援		○	○		◎	○	○						社会保障・社会福祉の基礎をなす公的扶助について理解し、また市民社会において必要不可欠な領域としてより機能していくための手立てについて理解する。
保健医療と福祉		○	○		◎					◎			①ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。 ②保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。 ③保健医療利用における社会福祉士の役割と連携や協働について理解する。 ④保健医療の課題を持つ人に対する社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。
権利擁護を支える法制度		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	権利擁護の意義を理解し、必要な法律や制度に関する専門的知識を身につけ、権利擁護に関わる専門職団体との連携、支援体制の在り方を理解する。
刑事司法と福祉		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	①刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 ②刑事司法における社会福祉士の役割について理解する。 ③刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。
ソーシャルワーク演習		○	◎		◎	○	○	○	○				ロールプレイング等を中心とする演習形態により、専門援助技術を習得することを目的とする。特に学生が自分自身で学習し、考え主体的に行動する態度を涵養し、この演習を通して、社会福祉士に必要な知識と技術、価値について理解する。
ソーシャルワーク演習(専門)		○	◎		◎	○	○	○	○				ロールプレイング等を中心とする演習形態により、専門援助技術を習得することを目的とする。特に学生が自分自身で学習し、考え主体的に行動する態度を涵養し、この演習を通して、社会福祉士に必要な知識と技術、価値について理解する。
ソーシャルワーク実習指導		○	◎		◎	○	○	◎					社会福祉施設・機関でのソーシャルワーク実習の意義を理解し、実習施設に応じた事前の準備や心構えを習得することでソーシャルワーク実習を効果的なものとする。これを目的とする。
ソーシャルワーク実習		○	◎		◎	○	○	◎				○	ソーシャルワーク専門職として、地域共生社会の実現に向けて、支援を必要とする人や地域の状況を理解し、生活課題(ニーズ)に基づく支援が適切に実践できる力を身につける。また、包括的支援体制を構築するために必要な多職種・多機関、地域性良等の連携の必要性を理解し、実践できる。
総合医科学		○	◎		◎								歯科衛生士、社会福祉士に必要な臨床医学を総合的に修得するとともに、これらの知識と技術を生かして、チーム医療の中で専門職としての業務を実践できるよう理解を深める。
医療倫理学		○	◎		◎				○				医療・歯科医療における倫理の重要性を理解し、歯科衛生士の義務と責任に関する基本的な知識、態度及び考え方を学ぶ。
基礎看護学		○	○		◎				○			○	看護学を始めて学ぶ人にとって、ガイダンスとなる科目であり、学習を通して看護学に対する興味や関心を高めることをめざす。
コミュニケーション論		○	◎		◎				○			○	コミュニケーション能力は医療従事者にとって必要不可欠なスキルである。言語的表現、非言語的表現、医療情報の基本など医療におけるコミュニケーション技法を学ぶ。加えて一部に歯科英語も導入して、グローバルな人材育成を目指す。
口腔保健衛生学臨床実習		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	口腔保健基礎学系および口腔保健支援学系の各講義で学んだ知識に加え、チーム歯科医療実習で学んだ他のスタッフとの連携、記録と報告、管理運営の実務等、「歯科診療補助」を制して実際の臨床現場で確認する。また、口腔患者予防実習で学んだ「歯科予防処置」が「歯科保健指導」に関して患者の個別性に応じた技術や指導等についても習得する。さらに徳島大学病院に入院している患者を対象としてベッドサイドで専門的口腔ケアを実践できる能力を養成する。
口腔保健衛生学臨床実習		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	臨床教授等の開設する歯科診療所、学校現場や保健所、有患者や障がい者関連の施設等において、指導教員の指示の下に施設職員との連携を行いながら歯科予防処置、歯科保健指導および歯科診療補助が適切に実践できる能力を養うことを目的とする。
卒業研究		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	本学で学んだ知識と技術を踏まえて口腔保健学あるいは社会福祉学に関するテーマを選択し、自ら計画・立案する。さらにその計画に基づいて研究を行い、その成果を口頭で発表し、論文にまとめることによって研究への理解と意欲を養う。

・カリキュラム・チェックリストの作成:ディプロマ・ポリシーが各授業科目の目標とどのように関連づけられているかをチェックする。